

東三河ものづくり大賞 2025

「空間包容スピーカー」を実現する、8cm フルレンジー発の スピーカー装置 (OPUS シリーズ)

Sound KOUBE 様

【評価書】

コロナ禍以降、自宅で映像や音楽を楽しむ生活が再び注目され、その体験価値を高めるスピーカーへの関心も高まっている。本申請は、Sound KOUBE が約 15 年の研究開発を経て完成させた、直径 8cm のフルレンジユニット 1 基で高域から低域までを再生する「空間包容スピーカー」の開発に関するものである。従来の高級スピーカーが複数のユニットを用いるのに対し、本製品は単一ユニットのみで全帯域をカバーし、その革新的設計思想が大きな特徴となっている。



技術的独自性の核となるのが、特許取得構造を改良した「ダンベルドーム方式」(特許申請中)である。従来のバスレフ方式が板の開口で通気を確保するのに対し、アクリル製半球バスレフをパイプでつないだ特殊構造を筐体内部に組み込むことで、フルレンジユニット単体では難しい重低音の再生を可能にした。素材をアクリルに変更することで不要な付帯音を抑制し、音像の解像度向上にも寄与している。さらに、密閉型エンクロージャー内でユニットを真鍮製治具で精密に固定することで歪みを抑え、シンプルな構成ながら高純度の音響再生を実現している。

筐体にはスプラース、ブビンガ、パープルハートといった無垢材を採用。MDF や樹脂とは異なり、楽器のような自然な響きを得られる点が特徴である。音響特性は単なる周波数表ではなく、「心地よく聞けるか」「クリアか」を基準に、開発者が多ジャンルの音源で聴取調整する手法が採られており、音作りへの独自の哲学が貫かれている。

市場面においても本製品は高い優位性を持つ。単一ユニット構成により小型化が進み、設置や掃除の容易さを備えた“邪魔にならない高級スピーカー”という新たな価値を提示している。音量を上げても会話が聞こえる特性は、オーディオ用途に加えテレビ横のホームシアター代替としても魅力がある。外観はシンプルで上質なデザインとし男女問わず受け入れられる仕上がりとなっている。

実績面では、クラウドファンディングにおいて OPUS3 が約 500 万円、OPUS4 が約 380 万円を調達し、OPUS7 は YouTube「通販の虎」で 45 万回以上再生されるなど高い認知と支持を獲得している。田原市のふるさと納税返礼品への採用も検討されており、地域への波及効果も期待できる。

以上より本製品は、独自構造による「8cm フルレンジ 1 基での全帯域再生」を実現し、コンパクトさ、省エネ性、意匠性の面で市場から高い評価を得ている。技術力と市場成果を兼ね備え、東三河のものづくり文化を象徴する装置として評価でき、「東三河ものづくり大賞」に相応しい成果と判断する。

2025 年 2 月 5 日

東三河広域経済連合会東三河ものづくり大賞審査委員長

国立大学法人 豊橋技術科学大学 学長 若原昭浩